

Hiroshima University Hospital News

熊本地震

広島大学病院

(災害派遣医療チーム)

DMAT派遣

ドローン空撮による状況把握



2016年4月の熊本地震により
お亡くなりになられた方に
心からお悔やみを申し上げますとともに
被災されたすべての方々に
お見舞いを申し上げます。



被災地支援を行ったDMAT隊員

熊本地震における支援活動 震度7の激しい揺れを2回観測した4月の熊本地震では、広島大学病院

広島大学病院DMAT 災害派遣 医療チーム 活動

広島大学大学院救急集中治療医学 廣橋 伸之

活動拠点本部の立ち上げ

熊本で2回目の震度7を観測した2016年4月16日午前4時過ぎ、厚生労働省からDMAT派遣要請がありました。広島大学病院は2チームを編成し、私の所属する第1チーム(医師:1人、看護師:2人、薬剤師:1人)は午前7時前に出発しました。午後に参加拠点である熊本市の北部に位置する菊池市内の川口病院に到着し、早速広島県内DMATと共に活動拠点本部を立ち上げました。私は本部長を拝命し、その後参集して来た33の中国四国および北海道チームを統括することになりました。本部では、まず県北部の広範囲な医療圏(有明、鹿本、菊池)の医療ニーズの情報収集から始めました。参集したDMATスタッフが手分けして病院、診療所に電話連絡や個別訪問した結果、熊本市内や益城町に比べると倒壊等の施設被害は少ないものの、水道・ガス等のライフラインの途絶や、病院での食糧不足の情報が多く寄せられ、熊本県へ直ちに情報供与し迅速対応を求めました。さらに多数存在する避難所の状況把握や、保健所や市町村との情報共有活動も深夜まで継続して行いました。私たちは18日朝に本部担当を交代し、阿蘇地区への支援に向かい、病院支援や避難所での診察を行いました。4月16日から20日まで5日間の活動でし



各地から参集したDMATにミッションを伝える筆者



広島大学DMATは本部担当



た。一方、第2チームは衛星通信車で出動し、西原村からの要請で、当教室所有のドローンによる被災地調査を行い貢献しました。また、広島県のドクターヘリ(医師:1人、看護師:1人)も出動し、熊本県から福岡県内の病院へ患者2人を搬送しました。

DMATの役割が重要に

さてDMAT(災害派遣医療チーム)と聞くと、災害現場の瓦礫の下での医療を行うことが任務と思われるかもしれませんが、DMATは現場活動だけではなく、被災した医療機関の支援、搬送介助や今回のような医療ニーズの情報収集や避難所の状況把握も行います。広島県では土砂災害、高速道路事故など、近年の局所災害が記憶に新しく、広島大学病院DMATはその各地で活動してきました。私たちは、今後も皆様の生命を災害から守るため、また来るべき南海トラフ地震にも備えて、日頃からスタッフ育成・訓練を続けていきます。



被災地での往診対応



吉川薬剤師、井上看護師、原看護師
廣橋医師(左から)

常日頃から備えを

その一方で、災害医療を行っている私たちでさえ、普段は自分の住んでいる地域だけは多分大丈夫だろうと思いがちです。阿蘇の避難所で老夫婦が「まさか自分の住んでいるところが地震になるとは思わなかった」と嘆いていました。「もし広島で熊本地震のような状況になったらどうしよう?」と、日頃から災害について少し考え、少しずつ備えていくこと、それが大事なことだと思います。

からDMAT(災害派遣医療チーム)2チームが出動しました。被災地での活動状況をまとめました。

ドローンによる被災地支援

広島大学大学院救急集中治療医学 貞森 拓磨

広島大学独自の取り組み

平成28年4月16日から28日まで熊本県西原村で被災地支援活動を行いました。益城町や南阿蘇村の現場が大々的に報道される中、人口7000人ほどの小さなこの西原村では、決して十分とはいえない人数で被災対策にあたっていました。「道路が壊れて通れない」「裏山が崩れている」といった情報が次々と役場に飛び込んできましたが、すべての情報を現地まで行って確認することはできません。特に断層による亀裂箇所の確認は、危険を伴いますが避難勧告や指示を出すための材料として重要です。ヘリコプターに乗って視察及び撮影を試みましたが、ヘリコプターでは低空飛行が難しく、写真も機内からとなるため、それらの情報は有用といえるものではありませんでした。そこで私たちは、ドローンを使用して情報提供を行うことを提案しました。依頼された山の亀裂箇所や崩落箇所のドローンの空撮映像は、鮮明で村役場の方々の要求を満たす水準でした。役場に詰めていた国土交通省、自衛隊とも一緒に映像を閲覧し、避難指示や勧告の重要な判断材料となりました。



出の口集落北側斜面亀裂(2016.04.21撮影)



崩落している砂防ダム上流



ドローンの映像を別モニターで映す



貞森医師(中央)

また、西原村役場からは亀裂箇所の撮影以外に、西原村全集落の撮影も依頼されました。半壊、全壊した家屋の取り壊しなどが始まる前に、震災の爪痕を記録して欲しいというものです。何十年か後に、震災を経験していない子供たちに「西原村では大きな地震があったんだよ。でも、みんなで力を合わせて村を再建したんだよ」と伝えるために…。

今回の被災地支援では、持てる技術が提供でき、役に立つことができたと思います。

ドローンの利活用を更に研究

ドローンを利用することで、これまで有人航空機でしか得られなかった情報を簡便に収集できるようになったことは大きな進歩です。私たちは、平成26年の広島土砂災害での消防隊員の殉職を教訓に、ドローンを活用した撮影実験に取り組んできました。救命救急現場での安全確保だけでなく医薬品の搬送など今後さらに研究を進めていきたいと思えます。

複数の安否確認の手段を

災害はいつどのような形でおこるか分からないため、防災用品を備えているご家庭も多いと思います。一つチェックしておいて欲しいのが、安否確認の方法です。発災すると災害地域内外で家族、知人、職場の同僚の安否確認が行われますが、音声での連絡は通信が集中し、つながらない場合が多くあります。メールや携帯各社が提供している災害伝言(掲示板)サービスなど、複数の安否確認の手段を確認しておくことが大切です。

ドローンで撮影した映像を
こちらでご覧になれます



YouTube空撮映像

【ドローンによる被災地支援を行ったメンバー】
救急集中治療医学 貞森拓磨、大谷直嗣、島谷竜俊
放射線技師 山岡秀寿
事務 岡田克己、三木泰英、石田勇氣、石田巧

ニュースアップ

中東のテレビ局が取材 膝軟骨再生医療

中東の衛星テレビ局アルジャジーラ(本社 カタール)の番組スタッフが4月13日と15日、広島大学病院が進めている膝関節の軟骨再生医療の取材のため病院を訪れました。

取材しているのは世界の先端医療を紹介する番組「The Cure(ザ・キュア)」の担当者3人です。この番組はおおよそ5年も続き、動画サイトのユーチューブでも見られるということです。番組リポーターのジャビッド・アブデルモーネンさん(36歳)は、英国ロンドン在住の救急医です。「とても高度で先進的な医療。世界の人に知ってもらいたい」と話し、膝軟骨再生の専門医である越智光夫学長に詳しい説明を求めています。

13日は、一昨年に再生手術を受けた女性の診察の様子を撮影。15日は昨年世界で初めて実施された、磁力を使った軟骨の再生手術を受けた女性の再生状況を確認する手術の様子や患者さんのインタビューなどを撮影しました。

取材を受けた越智学長は「日本の技術は世界のトップレベル、これまでやってきたことは間違いがなかった。多くの患者さんに来てほしい」と話しています。

今回の番組は、以下のサイトでご覧いただけます。

<http://www.aljazeera.com/programmes/thecure/2016/06/japan-knees-160606134435356.html>



越智学長の診察を受ける患者さんを取材する番組スタッフ



膝関節の軟骨の再生状況を確認する手術も取材

親子で始めよう むし歯菌退治!



アンパンマンとばいきんまんのぬいぐるみ劇

6月4日の「むし歯予防デー」にちなんで3日、広島大学霞キャンパス構内の広仁会館で毎年恒例の親子参加のイベントが開催されました。

37回目となる今年のテーマは「親子ではじめよう! ポイント押さえたむし歯予防」です。52組の親子126人と病院内のたんぽぽ保育園の園児たち32人が参加しました。歯科検診・相談のほか

歯学部口腔健康科学科の学生たちが手作りしたアンパンマンやばいきんまんなどのぬいぐるみ劇、子どもたちの食事の時間や内容、食べ方のアドバイスなどが行われました。

小児歯科の香西教授は「むし歯菌は砂糖が大好きです。おやつを決め、だらだら食いはやめましょう。寝る前には仕上げの歯みがきをしましょう。そして、定期的な検診を受けましょう」とむし歯予防のポイントをアドバイス、参加したお母さんたちは「気軽に相談できてよかったです」「バイ菌の数が多くてショックです。炭酸飲料は控えます」「むし歯が見つかってよかったです」などと話していました。



寝かせ歯みがきを指導



むし歯のチェックや相談コーナー

栄養管理部
情報

注文する前にちょっと考える!

「外食」と上手く付き合う方法

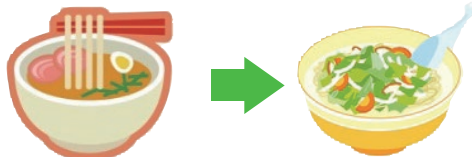


担当した管理栄養士

注文する時 外食 食べる時



単品メニューよりも定食スタイルで栄養バランスを考えましょう。



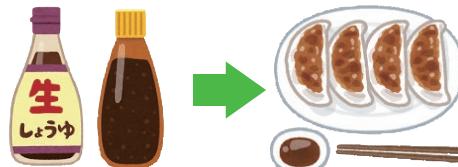
麺類はたんぱく質や野菜が不足しやすく、塩分が多いメニューです。できるだけ具の多いものを選びましょう。



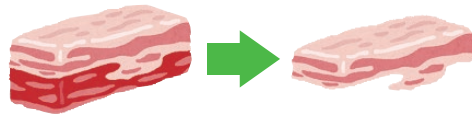
外食はほどほどに控えるようにしましょう。また、外食の際は栄養成分表示のあるお店を選ぶようにしましょう。



ご飯の量が多いときは調整しましょう。また、ラーメンなどの汁は塩分が多いので残すようにしましょう。



タレなどはかけるのではなくつけて食べましょう。



肉の脂身の部分を残しましょう。

中食での一工夫



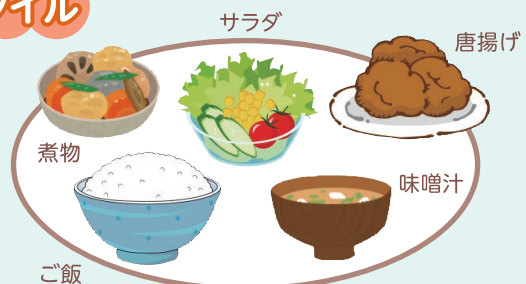
中食とは・・・

自宅外で調理された食品を購入して持ち帰り、自宅で食べる食事形態のことをいいます。中食には、弁当、総菜、冷凍食品があります。中食メニューを上手に選び利用すれば、栄養バランスもよくなります。

栄養バランスのよい基本の食事スタイル



例えば・・・



病院からのお知らせ

ボランティア活動報告

広島大学病院は多くのボランティアの皆さんの善意にも支えられています。

外来の受付案内や院内図書、傾聴活動など6分野、40の方がボランティア活動を行っています。今号から6回にわたって活動状況を紹介します。1回日は傾聴ボランティア(患者さんのお話を聴かせていただくこと)です。14の方が活動しています。



勉強会の様子



患者さんの作品

大学病院にはボランティア活動しておられる方が沢山います。外来受付・ほのほの図書館・絵手紙教室・仲良し広場・情報プラザそして傾聴です。

私たちは、傾聴ボランティアをさせていただいています。毎週金曜日午後1時から3時までが活動時間です。場所は各階のデイルームです。入院中の患者さん(御家族の方を含む)とぬり絵を描きながらお話をうかがっています。小学生以来だとおっしゃる方がほとんどですが、塗り始められると、とても懐かしそうに楽しんでくださいます。塗りながらポツポツお話をしてくださいませ。患者さんの人生を聞かせていただくとき、自分には経験のないこと(想像もしていなかったこと)を。それは感動であり驚きなのです。そんな時、自分が豊かになり、聞かせていただく幸せを感じるのです。「退屈しのぎが出来た」とか「時間つぶしが出来た」と言っていたら私の活動は良かったと思っています。

傾聴の聴は耳に目と心をプラスと書かれています。患者さんに寄り添い、大きい耳に優しい目と心を加えお話をうかがうように心がけたいと思っています。



(傾聴ボランティア 長田 ちとせ)

催しのご案内 (2016年7月~9月)

がん治療を支える
患者サロン

場所：臨床管理棟3階 3F2会議室

— がん治療を支える — 心のケアについて

7月21日(木) 13:30~14:30 講師：緩和ケアチーム医師 小早川 誠

— がん治療を支える — がん療養と食事について

8月18日(木) 13:30~14:30 講師：管理栄養士 岡 壽子

— がん治療を支える — リンパ浮腫の予防とケア

9月15日(木) 13:30~14:30 講師：がん看護専門看護師 山口 真由美

患者・家族が同じ目線で

がん患者
おしゃべり会

7月26日(火) 13:30~14:30

8月23日(火) 13:30~14:30

9月27日(火) 13:30~14:30

場所：診療棟2階 健康情報プラザ

いずれも問い合わせは：
がん相談支援センター ☎082-257-1525